

# 秋の林 見て触れて楽しむ



里山和楽会

神戸市北区のかがやきの森  
で開かれた自然観察会

ボランティア最前線

「ドングリが近年にない大豊作なのよ」とガイド役の谷口文子さん。なるほど、里山和楽会が整備に励む神戸市北区の「かがやきの森」の散歩道には実がびっしりと落ちていました。

実のついた枝を折り持ち帰ります。生け花に使うそうです。葉が波打ち、風にふかれてさやさやと音を立てることからソヨゴの名前が付いたとか。木にペットボトルがぶら下げてあります。これは中にスズメバチの好物を入れて閉じ込め、被害を防ぐためです。

11月1日(日)午前10時から同会主催「秋の自然観察会」が開かれました。近くの小倉台の幼児3人を含む住民24人が参加。道満俊徳代表(生13)が「この林には130種の樹木が生えています。じっくりと見て、手で触り、匂いをかいでみてください」と挨拶の後、2班に分かれスタート。谷口さんが散歩道のとっかかりで「これがリュウブ。夏に穂のような花が咲く。ふだん、葉っぱを貯蔵しておき、飢饉になるとご飯に混ぜて食べたとか。江戸時代、年貢として納めたそうです」と説明。ついでルーペ



カマキリの巣を手にする男の子

を取り出し、コガラウツギの花の跡やセンブリを観察。参加者も「えらい倍率が高い。ようわかる」と感心しきり。コナラ、ヒノキ、スギ、アラカシも簡潔に説明します。

10分余り歩くと展望台に到着。帝釈山系や遠く三木の山々が見えます。直下には小倉台の住宅街。この里山は、整備する前は樹木がうっそうと茂り、暗くて見通しがきかなかった。つる草も絡みついてブッシュ状。マツタケが豊かに獲れたアカマツは、大半、枯れていた。今、適切な伐採で光が通り、明るくなっています。樹木や生物の種類も大幅に増えています。

小休止の後、ソヨゴの赤い実を発見。参加の女性が

クロモジは茶会のお菓子に使うつまようじの材料。枝を折って香りをかぐとハーブのようです。アベマキ、サルトリイバラ、ヤマモモなど興味深い話も聞きました。12時前、ゴールに到着。ある女性は「知らないことを一杯、聞いた。秋の山、自然にたっぷりと触れ堪能した。気持ちよく歩けた」と満足そう。道満代表は「例年なら40-50人が参加する。PRが足りなかったか」と少し残念そうでした。

(他のスタッフ: 藤原文江、猿橋太嘉子、仲村千恵子、内富紗智子、岡崎照保さん)

× × × ×

道満代表に事前の10月21日に和楽会の歩みを取材しました。活動場所は、社会福祉法人「かがやき神戸」が管理しているかがやきの森の東地区。神戸電鉄・谷上駅から南へ約1キロ上がった新興住宅地のそば。標高350mから380mで面積は約3ha。

道満代表が、生環13期生のころ、「かがやき神戸」所長に「障害者施設に隣接する林を整備・再生していただけないか。障害者やお年寄り、子どもたちが安心して、自然に親しみながら散策できる交流、憩いの場にしたい」という話があった。趣旨に賛同したクラスメートらで、活動を開始。平成19年4月、十数人で和

楽会を結成、活動に乗り出した。グループ学習でも里山を取り上げ、平成21年にはグループわに加入。会員は山歩きが好き、植物に興味があるという素人ばかり。里山の事は何も知らない。ゼロからの出発だった。

指導を仰いだのは、当時、カレッジの講師だった服部保・兵庫県立大教授。同教授の里山の教えを忠実に実行してきた。それは①里山林の環境調査をした後、植生調査をし、管理作業に入る②輪伐し、樹齢の異なるパッチワーク状の林にする③林床整備は毎回行い、下草や落ち葉を集めるーこと。まず、学習、研修を重ね、日々、中期、年間の活動計画を立てる。活動結果は記録、分析、検証する。

毎週月曜日が活動日で年間40日間ぐらい作業する。里山管理、調査、堆肥づくり、広報など7チームある。8月は暑いので、専門の施設で学習、研修をする。

森は5ゾーンに分けその中を10メートル×10メートルの100㎡という調査枠・作業枠を250区を作った。各区は4人で担当、1日に4班計16人が調査、作業をした。どんな木や草が生えているか種類、本数、樹木の高さなどを調べ、植生調査表を作る。観察木を決め、観察も続けている。どの木を伐採するか、木に印をつける。印をつけた木は、後日、伐採、新たに植樹する。伐採した木は枝を切り落とし、一定の長さに切る。集めた落ち葉などとピオネストに積み、堆肥にする。

活動日の前に計画を作成して会員にメールで配信する。当日、作業前にミーティングをし、約3時間、伐採、植樹、林床整備などの作業。その後は各チームで、きょうは何をしたか発表、記録している。会員相互の情報の共有化に努め、これを毎回繰り返す。遊歩道や階段を作り、貯水槽も設置。5ゾーンの整備は平成25年に完了。その後は、各ゾーンを順番にメンテナンスしている。

このほか「かがやき神戸」主催の地域ふれあいまつり、地元の広陵小学校の環境学習、春、秋の自然観察会、〈わ〉の昆虫採集などに協力している。カレッジの生活環境コースでは授業も実施。NHK、韓国、ドイツのテレビ局の取材も受けており、評判はよい。メンバーは16人。8年間の活動中、多少の出入りがあったものの、和気あいあいと働いているとのことでした。

(取材・写真 広報 永野知己)

## 生物多様性シンポジウムで 花実の森PJ 報告

10月24日午後、神戸市シルバーカレッジで、神戸市と神戸市シルバーカレッジ主催の平成27年度生物多様性シンポジウム「生きもののつながりと私たちの暮らし」が開催されました。カレッジホールでは基調講演とリレートークが、行われ、基調講演では生物多様性の現状と保全の重要性が説明されました。

リレートークでは、神戸市の取り組み、食・農業・漁業・消費者からみた生物多様性について、地域での取り組みとして、海・川・里山での取り組みについて、8団体（小学生も）から報告がありました。

グループわ 花実の森PJ 菅田忠志代表（生11）が「里山で取り組む保全活動」について報告しました。

最後に「生物多様性保全 市民行動宣言」が紹介され、拍手で採択されました。ふれあいホールではポスターセッションが行われ16の団体のポスターが展示されました。（広報 岡本紘一）



## 東六郷小の一行が村へ

仙台市立東六郷小の6年生8人と先生ら計11人が12月11日夕、しあわせの村を訪れ福祉振興協会、グループわなどが歓迎セレモニーを開きました。吾郷専務理事、小畑理事長が歓迎スピーチを述べたあと、手芸品やお菓子、文具などのお土産をプレゼントし、子供たちを励ました。鈴木校長からは「当時1年生だった子供たちも6年生になり、大震災のことも少しは分かるようになりました。毎年、東六郷小に来ていただき感謝しています」とお礼の言葉があり、子供たちからも「ありがとうございます」と染め抜かれた一文字が協会へ贈られました。グループわは7月に同小を訪問。この日の歓迎会にも理事長ら5人が出席しました。東六郷小の子供たちは神戸市教委の招きで毎年神戸を訪れており、ルミナリエを見学したり、地元の小学校と交流会を開いたりしています。今回は10日から2泊3日の予定で神戸の休日を楽しんでいます。（東北プロジェクト・南形徹）

